

世界農業遺産体験学習で学んだこと

史学文化財学科 1年 山浦 直人

発酵食品学科 1年 宮城 梨緒

発酵食品学科 1年 平田 まみ

発酵食品学科 1年 幸 莉袈

1. はじめに

今回、私たちは大分県にある世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域について学びました。国東半島宇佐地域の人々は、古くから独特の風土、気候と向き合い、長い間水との関り方を模索していきました。

そして、やがて生きるための知恵としてクヌギ林と水を貯めるため池の二つが連携して地域を生かす世界に誇れるシステムを完成させました。

また、それは先人たちが守り続けてきた伝統的な農法、生態系を今現在まで残す非常に重要な役割を持ち、それは国東半島宇佐地域だけでなく、大分県、またこの日本、そして世界が認めた未来への大切な宝物になりました。

これらを私たち学生が学ぶことによって世界農業遺産とは何なのか、また先人たちが残してきたこの伝統をどう守るかなどの新たな時代への対策等も取れるのではないかと考えました。

2. 大分県の「国東半島宇佐地域」の世界農業遺産認定

今、世界では予想をはるかに超える気候変動や環境悪化、また世界各国のグローバル化に伴い、存続が危ぶまれている伝統的な農業、文化、土地景観、生物多様性など保全・継承していく必要性が近年叫ばれています。

この大分県では、国東半島宇佐地域で受け継がれてきた風土に根差した伝統農法や多様な生態系などを継承するため、「国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会」を組織し、世界農業遺産（GIAHS）への申請を行いました。

そして、2013年5月30日、「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」が、国際連合食糧農業機関（FAO）から世界農業遺産に認定されました。耕作に適さない土地で食料と生計の手段を確保しているこの地域の伝統的な農業の営みが世界的に価値あるものとして認められたのです。

3. 世界農業遺産とは

食糧の安定確保を目指す国際組織である国際連合食糧農業機関(FAO)が、失われつつある伝統的農業や農法、生物多様性、農村文化、農業景観などを維持保全している重要な地域を次世代に引き継いでいくため 2002 年に始めたプロジェクトのことです。次世代に継承すべき「伝統的な農業のシステム」を認定するもので、現在、世界で 31 の認定箇所が存在し、日本では「国東半島宇佐地域の農林水産循環システム」「能登の里山里海」「トキと共生する佐渡の里山」「阿蘇の草原の維持と持続的農業」「静岡の茶草場農法」の 5 つが認定されています。

4. 世界農業遺産体験学習の主な内容

大きく分類すると以下の 4 通りの工程に重点を置きながら座学、体験学習ともに私たちは世界農業遺産について学んでいきます。

- 田染の荘(小崎地区)や富来地区、姫島村に赴き、地域の方や専門家の説明を交えた見学会
- 世界農業遺産や国東半島宇佐地域の歴史と文化、地形や農業水利、産業等についての 11 回の講義
- 世界農業遺産について他者に伝える方法の学習
- 夢米棚田チームの活動に参加し、農業文化公園内にある棚田で米作り及び七島藺の栽培と収穫を体験

5. おわりに～世界農業遺産体験学習を履修しての感想～

今回私たちは、世界農業遺産体験学習を通じ、大分県の伝統的な農業を体験し、現地で数多くの方々からお話を伺い、水の大切さや昔から続くシイタケ栽培の素晴らしさを感じました。講義では、昔の人の生きるための知恵と次世代へ引き継いでいく素晴らしさ、農業に対する詳しい技術を学び、心から尊敬するとともに、より詳しく知りたいと思いました。また、夢米棚田チームの方々との交流、活動等で、粃播きから七島イの苗の植え付け、刈り取りや脱穀までを体験して、農業の大変さや収穫した際の達成感、また農業を通じて多くの地域の人と交流の輪を広げることができました。今回の私たちの活動は必ずこの先の人生に役立つと考えています。

世界農業遺産体験学習を 通して私たちが学んだこと

史学・文化財学科	1年	山浦 直人
発酵食品学科	1年	平田 まみ
"	1年	幸 莉袈
"	1年	宮城 梨緒

1. はじめに

私たちは大分県にある世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域について学んだ。

国東半島宇佐地域の人々は、古くから独特の風土、気候と向き合い、長い間水との関わり方を模索してきた。やがて生きるための知恵としてクヌギ林と水を貯めるため池の二つが連携して地域を生かす、世界に誇れるシステムを完成させた。また、先人たちが守り続けてきた**伝統的な農法**や**生態系を現在まで残す**重要な役割を持った。

私たち学生が学ぶことにより、世界農業遺産とは何なのか、また先人たちが残してきた伝統をどう守るかなど、次世代への対策等も取れるのではないかと考えた。

2. 大分県の「国東半島宇佐地域」の世界農業遺産認定

現在世界では、気候変動や環境悪化、グローバル化に伴い、存続が危ぶまれている伝統的な農業・文化、土地景観、生物多様性などが叫ばれている。これらを保全・継承していく必要性がある。

大分県では、国東半島宇佐地域で受け継がれてきた風土に根差した伝統農法、多様な生態系などを継承するため「**国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会**」を組織し**世界農業遺産(GIAHS)**への申請を行いました。

2013年5月30日に、「**クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環**」が、国際連合食糧農業機関 (FAO) から世界農業遺産に認定された。

この事で、耕作に適さない土地で食料と生計の手段を確保している伝統的な農業の営みが、世界的価値のあるものとして認められた。

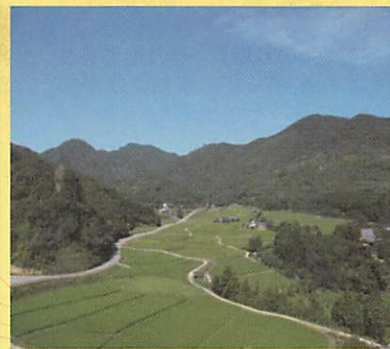
国東半島宇佐地域において世界農業遺産とは、生物多様性、伝統的農業や土地景観などを次世代へ繋ぐ架け橋になっているのではないかと感じた。

3. 世界農業遺産とは

FAOが失われつつある伝統的農業や農法、生物多様性、農村文化、農業景観などを維持保全している、重要な地域を次世代に引き継いでいくため2002年に始めたプロジェクトの事である。

次世代に継承すべき「**伝統的な農業のシステム**」を認定し、現在世界で31カ所の認定箇所が存在する。

日本は「**国東半島宇佐地域の農林水産循環システム**」「能登の里山里海」「トキと共生する佐渡の里山」「阿蘇の草原の維持と持続的農業」「静岡の茶草場農法」の5つが認定されている。



世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域(田染庄小崎地区)の写真

参考画像元
(国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会HP)

4. 世界農業遺産体験学習の主な内容

- ・ 現地に赴き、地域の方や専門家の説明を交えた見学会
- ・ 世界農業遺産や国東半島宇佐地域についての11回の講義
- ・ 世界農業遺産について他者に伝える方法の学習
- ・ 夢米棚田チームに参加し、農業文化公園内にある棚田で、米作り・七島蘭の栽培・収穫を体験

5. 「世界農業遺産体験学習」の講義活動

- ・ 4月9日
世界農業遺産についての講義、世界農業遺産とは何かを学んだ。
- ・ 4月16日
国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長の林浩昭さんに世界農業遺産の活用、なぜ国東半島宇佐地域は認定されたか、認定後の地域の変化とこれからを詳しく学ぶ。

- ・ 4月23日 4月30日 5月7日
担当の先生方から3回に分けて世界農業遺産ガイドとしてのポイントを学んだ。

- ・ 4月25日
重要文化遺産である田染荘及び国東半島宇佐地域を見学した。どう説明すればいいか、どんな歴史的背景があるかなどを学んだ。

- ・ 5月14日
世界農業遺産ガイドの模擬実演として、県職員の方々に世界農業遺産とは何なのか、国東半島宇佐地域の生態系の重要性について説明を行った。

- ・ 9月17日
国東半島宇佐地域の歴史や文化についての講義があり、国東半島宇佐地域の農業体系を中心に学んだ。

- ・ 9月24日
国東半島宇佐地域の地形、その地形を生かした農業水利を学んだ。また、水が如何に重要かを知ることが出来た。

- ・ 10月1日
国東半島宇佐地域の農産物（七島蘭の生産と流通）を学んだ。七島蘭の歴史的背景、また七島蘭の生産体制を知る事も出来た。

- ・ 10月8日
椎茸栽培の歴史と豊後なば山師について学んだ。なば山師の存在と長い歴史が、国東半島宇佐地域の椎茸栽培の歴史を築いたことを学んだ。

- ・ 10月15日
国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長の林浩昭さんによる国東半島宇佐地域の農産物（椎茸栽培とクヌギ林）について学んだ。椎茸栽培の伝統農法とため池やクヌギ林を中心とした自然との共生を学んだ。

6. 最後に ~世界農業遺産体験学習を履修しての感想~

世界農業遺産体験学習を通じ、大分県の伝統的な農業を体験し、現地の方々からお話を伺い、水の大切さや昔から続くシイタケ栽培の素晴らしさを感じた。

講義で昔の人の生きるための知恵と次世代へ引き継いでいく大切さ、農業に対する詳しい技術を学んだ。

また、夢米棚田チームの交流・活動等で籾播きから七島イの苗の植え付け、刈り取りや脱穀までを体験した。この活動を通して、農業の大変さや収穫した際の達成感、地域の方々との交流の輪を広げることが出来た。これらのことは、この先の活動に役立つと考える。

ご清聴ありがとうございました